

テーマ3 公共施設の多様な利用

冬期ボランティアサポートプログラムによる快適な雪みち空間づくり

【背景】歩行者転倒事故の増加や「ユニバーサル社会」の実現へのニーズの増加

【ねらい】地域の方々との協働で行われる冬期VSPをサポート。移動式融雪機、流雪溝への投雪、歩道への砂撒きを実施し、安全で快適な雪みち空間づくりをめざします。

富良野バス停の除雪作業 平成16年度の実績状況



融雪機による融雪作業状況



設置された砂箱(右)と企業による砂撒きの実践(左)

これまでの取り組み

旭川みずほ通り商店街振興組合との協働により国道40号にて移動式融雪機による融雪作業を平成17年2月27日に実施。

流雪溝への投雪は旭川建設業協会二世会、旭川開発建設部旭川道路事務所・旭川市・旭川土現及び流雪溝管理運営協議会と沢山の参加者により平成17年2月26日に行われました。

旭川市内中心部の歩行者が多い交差点、横断歩道部に砂箱を44基設置しました。中身の砂(防滑材)についても再生資源を活用することにより21%のコスト縮減がされています。

ボランティア協定締結：11月予定 実施：12月より

展開内容

移動式融雪機による融雪作業

地域住民および道路利用者の冬期通行の安全を図り、地域の皆様との協働によるユニバーサル社会の実践として交差点・歩車境界での融雪作業に協力します。

流雪溝への投雪

進む高齢化による不在地主・独居老人宅などの除排雪の困難な地域で歩行者の安全を確保するために流雪溝への投雪作業を行います。

歩道への砂撒き

冬期間の歩行者にとって安全で歩きやすい歩道づくりに役立てることを目的として、旭川市内中心部の歩行者が多い交差点、横断歩道部などを中心に砂箱を増設しました。

設置した砂箱は間伐材を使用し、中に入っている砂の容器にはペットボトルを利用するなど、環境に配慮したものとしました。補充については、地域のボランティアの方々より要請を受け補充しています。

冬期VSPの概念図



テーマ3 公共施設の多様な利用

河川管理施設を活用した地域交流イベントの開催

【背景】地域の連携・交流の場となる「永山新川管理センター」の設置に伴う活用要望。
【ねらい】地域の方々と協働した冬季の地域交流イベントを開催することにより、厳寒の中でも川と親しみ、年間を通じて地域交流の場となるよう活用する。

平成17年2月の「エコホテル＆冬まつり」の様子



共同して行うイグルーづくり



「さらら」内で行われる交流イベント



築山(備蓄土砂)を利用した滑り台



永山新川に点灯されたエコキャンドル

これまでの取り組み

平成16年3月に「牛朱別川分水路事業」が竣工して、新しい川「永山新川」が誕生し、その管理と水防の活動拠点として永山新川管理センター(川のふるさと交流館・さらら)が整備されました。

これまでもここを拠点とし、地域の方々を主体とした各種交流イベントを開催している。

展開内容

永山新川エコホテル＆冬まつり実行委員会(地元NPO、商工会、JA、小中学校PTA、ながやま子どもの水辺協議会など)と旭川開発建設部が協働して実施します。平成17年4月に「ながやま子どもの水辺協議会」が全国に登録され、子供達の水辺体験・環境学習等の活動拠点となっています。

取り組み概要

- ・年間を通して河川空間に親んでもらい、地域の交流の場となるよう、雪像やイグルーづくりなど冬ならではの活気あるイベントを地域の方々と共同して実施します。
- ・水質悪化の原因ともなる家庭の廃油をもとに作ったエコキャンドルを永山新川に点灯し、永山新川の水環境やその改善策等について共に考えます。

実施時期：平成18年2月中旬(予定)